

## 新たな不登校が生じない取組 「未然防止」の取組

### 不登校が生じない魅力ある学校・学年・学級づくりの推進

#### 【取組1】(A・B中学校)

居場所づくりの一環として「クリーン作戦&収穫祭」を行っている。ごみを拾うだけではなく、集めたごみの量を測り、最も重かったチームを表彰するという企画を生徒会が中心となって行っており、生徒に好評である。また、青少年対策委員会やPTAの方々によって焼き芋やスープがふるまわれるなど、和やかな雰囲気の中で、生徒同士の交流も深められた。令和7年度は生徒や保護者を含め300人ほどが参加する大きな学校行事となった。学校を休みがちな生徒の参加もあり、生徒が互いのきずなを育む取組となった。



また、きずなを育む取組として、生徒会による昼休みの体育館開放を行った。生徒会の発案で〇×クイズ大会をしたが、学年を越えて楽しむことができ、他学年の生徒との関係を作るきっかけとなっている。生徒会役員の生徒たちも、企画や運営の面で自信が深まる取組となった。



#### 【取組2】(C・D中学校)

保健体育科の授業では、学習規律を意識した学習環境づくりが行われていた。適切なタイミングで声掛けができており、前向きに学習に取り組む環境をつくることのできた。班ごとに話し合った内容を発表する際には、発表を聞く態度の留意事項を事前に生徒に伝え、発表を聞いて学びを深めることができた。音楽科の授業では、小グループに分かれて生徒同士で意見交換を行う様子が見られた。

#### 【取組3】(A中学校)

6月の生徒意識調査では外部講師を招き、調査実施後に結果をどう捉えるか、また生徒にどのような声掛けをしていくかの講話を実施した。9月には教育心理学の研究をしている外部講師に迎え、教員が普段、生徒を叱責しそうな場面を考え、ケーススタディ等を通して、具体的な生徒への声掛けの方法について学ぶ機会となった。



## 多様な学びの場を確保する取組

### （「早期支援」及び「長期化への対応」の取組）の推進

#### 支援会議（E中学校）

欠席日数が年間 30 日以上の不登校生徒だけではなく、欠席日数は少ないが、休みがちな生徒への支援についても話題に挙げた。不登校対応巡回教員等が、当該生徒への早期支援によって登校を継続できた生徒もあり、支援会議の結果を基に様子の気になる生徒への早期支援が効果的だった事例となった。

#### アウトリーチによる支援（A中学校）

週 1～2 回、校内別室で過ごす生徒がいるが、その生徒が欠席した場合は家庭訪問をしている。学級担任から配布物等を預かって渡し、次回の予定を確認する。当初は呼び鈴を押しても出てこないことも多かったが、校内別室指導を重ねるごとに関係が構築され、今は必ず出てきて玄関先で話すようになっている。

#### 校内別室における支援（A・C中学校）

どの学校も校内別室が用意されており、週に各校 1～3 人ほどの利用者がいる。不登校対応巡回教員は各校に週 1 日、巡回しているが、学校によっては校内別室指導支援員がおり、週 2 日以上の利用も可能である。校内別室を利用する生徒に対する継続した支援を通じて、当該生徒は少しずつ学習習慣を身に付け、教室復帰を見据えた過ごし方を意識できるようになってきている。

学習の進め方にも配慮が必要であり、面談等を通して、学習のつまづきが起こった時期を探り、生徒の状況に応じた教材を使って丁寧に支援することを心掛けている。

#### デジタル機器を活用した支援（C・D中学校）

不登校生徒に向けてオンライン授業を行っている。自宅で受講するだけでなく、登校して校内別室で受講するというパターンも試し、教室への距離を縮める取組を進めている。

また、学習支援ツールで不登校生徒専用のクラスルームを作り、個人の連絡をやすくしているケースもある。

#### 関係機関との連携（E中学校）

S S Wの校内委員会への参加率が高い。不登校対応巡回教員と巡回校が重なっていることもあり、連携も取りやすい。生徒それぞれの状況について共有することにより、生徒への配慮事項についても丁寧にできている。

### 成 果

登校が全くできていない状態から、校内別室に来るようになったり、不定期にしか校内別室に登校できていない生徒が毎週来るようになったりするなどの成果が見られた。

### 課 題

巡回担当校全体では支援が必要な不登校生徒数が多く、校内別室につながった生徒はまだ少ない。各校教員や関係機関と連携して生徒の支援の充実を図る。